

主観的・客観的な食環境及び 親子の食に関する包括的な質問紙で子どもの肥満原因を探る

栄養学科 小山達也

研究の目的

- 1) 第一次産業従事者の生活習慣の現状を明らかにする。
- 2) 肥満と関連する生活習慣を明らかにする。

調査内容

- 1) 2018年11月～12月に、東北町の農協組合員と漁協組合員に自記式質問紙調査を実施した。
- 2) 質問項目は、基本属性(生年月日、身長、体重、飲酒及び喫煙習慣、起床時刻、就寝時刻)、食品群別摂取頻度、食事機会の習慣とした。

結 果

- 1) 漁協組合員の方が農協組合員に比べて、起床時刻が早かったが、就寝時刻には差は認められなかった。
- 2) 漁協組合員の方が朝食欠食者の割合、朝食と昼食の間の間食をする者の割合が高かった。
- 3) 漁協組合員の方が朝食時刻が早く、昼食時刻が遅かった。

今後の展望

- 1) 生活習慣と肥満との関連を縦断的に検討する。
- 2) 特定健診と突合し、メタボリックシンドロームと関連する生活習慣を検討する。